

鳥扱いの基礎知識

上 インフルエンザウイルスに 感染した鳥と接触したヒトが、ま れに鳥インフルエンザを発症する ことがあります。

鳥インフルエンザは、鶏やアヒルなど、飼われている鳥だけでなく、野鳥にも感染していることがあります。

中東で、これまでに600人以上が 鳥インフルエンザ(H5N1)を発症、 350人以上が亡くなっています。 また最近では、主に中国で鳥インフ ルエンザ(H7N9)の感染者が確認 され、これまでに100人以上が亡く なっています。

鳥扱いの具体策

乗り場場、鳥の羽を むしるなどの処理をしているところ、鳥を売買している市場に不用意に近づかないようにしましょう。

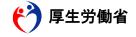
ララった鳥や死んだ鳥にさわったり、鳥のフンが舞い上がっている場所で、ホコリを吸い込まないようにしましょう。

外出先から帰ったらせっけんで手を洗うなど、日常的な感染症予防を心がけましょう。

鳥扱いの注意点

生国からの帰国時に発熱やせきがある方、鳥インフルエンザに感染した鳥(死んだ鳥を含む)や患者に接触したと思われる方は、検疫所の担当者にご相談ください。

リー 国時には症状がなく、帰宅後に 発熱やせきの症状が現れた場合は、医 療機関を受診し、鳥インフルエンザの 発生地域に渡航していたことをお知ら せください。ご不明な点は、最寄りの 保健所にご相談ください。





キケンな蚊、どうする蚊?

さされないために何ができる蚊?

そで、長ズボンの 服を着用し、肌を出さな いよう心がけましょう。

よけスプレーや蚊取り線香、殺虫剤を積極的に使いましょう。

方はもちろん、昼 夜も、また都市部(特に 家の中)でも注意しま しょう。

さされるとどんな病気にかかるの蚊?

マッリア

【症状】

寒気、発熱、息苦しさ、 目の充血、嘔吐、頭痛、 筋肉痛

【特徴】

全世界で年間、2億人の 患者、約66万人以上の 死亡者が報告されていま す。

媒介する蚊は、山間部や 田園地帯を中心に日没後 に出没します。夜間の外 出は注意しましょう。

【媒介する蚊】 ハマダラカ

デ ング熱

【症状】

突然の発熱、激しい頭痛、 関節痛、筋肉痛、発疹

【特徴】

全世界の100以上の国で 流行しています。年間約 5000万~1億人の患者が 発生していると考えられ ています。

軽症ですむ場合が多いものの、まれにデング出血熱という重症な疾患になる場合があります。

【媒介する蚊】 ネッタイシマカ、 ヒトスジシマカ

チャングニア熱

【症状】

突然の発熱、激しい頭痛、 関節痛、発疹

【特徴】

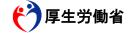
東南アジアを中心に流行 しています(特にフィリピン、インドネシア、シンドネシア、 イ、マレーシア、シガポールなど)。媒介は日中、都市部(時は 家の中)にも出没します。

【媒介する蚊】 ヒトスジシマカ、 ネッタイシマカ

海外でさされたら何をすべき蚊?

外で蚊にさされて熱が出た場合は、できるだけ早く医療機関を受診してください。

プライン 国時に発熱や心配な症状がある方は、検疫所の担当者にご相談ください。





狂犬病から身を守るフカ条

狂犬病を知る3カ条

まざまな国で 今なお発生している 感染症です。先進国 でも感染する可能性 があります。 大だけでなく、 猫、コウモリ、キツ ネ、アライグマなど、 発症したさまざまな 動物にかまれてうつります。 **感**染して発症すると、有効な治療法はなく死に至ります。

注 犬病の感染を防ぐ2カ条

1 大病に感染した動物を、 外見では、必ずしも判断する ことはできません。 海外では、素姓のわからない 動物にむやみに近づかないよう にしましょう。 **3**土 犬病の流行地域(アジア、アフリカ等)に渡航し動物と頻繁に接触する場合などは、渡航前に狂犬病ワクチンの接種をうけましょう。

注 犬病の発症を防ぐ2カ条

動物にかまれた場合は、すぐに傷口をせっけんと水でよく洗い、できるだけ早く医療機関で傷の処置をしましょう。また、狂犬病ワクチン接種の必

要性について相談しましょう。

更力物にかまれたなど、感染の恐れがある場合は、帰国時に必ず検疫所にご相談ください。 検疫所では医療機関の紹介も行っています。



